

県内経済動向調査結果(平成21年10月分)

平成21年12月17日

産業経済政策課

概 況

県内経済は、製造業で持ち直しの動きが見られるものの、総じて厳しい状況が続き、先行きの不透明感が広がっている。

主な業種	状 況
製 造 業	減産となっているが、引き続き持ち直しの動きが見られる 生産額、受注額はそれぞれ前年同月比11.3%減、同14.1%減となった。 3か月先の業況見通しDIは▲8.5から▲31.7となった。
建 設 業	公共工事の減少などから先行き見通しが悪化 受注額、完工高はそれぞれ前年同月比28.2%減、同20.5%減となった。 3か月先の業況見通しDIは▲31.3から▲66.7となった。
小 売 業	弱い動きの中で家電品の売上が好調 売上高は前年同月比1.9%減、3か月先の業況見通しDIは▲27.6から▲57.1となった。
サービス業	弱めの動きとなっている 売上高は前年同月比8.7%減、3か月先の業況見通しDIは▲34.6から▲37.0となった。

製造業の動向

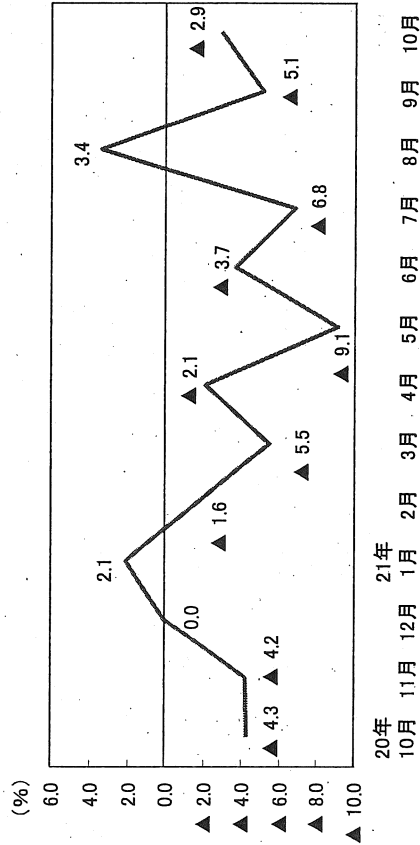
1 食料品

弱含みとなっている

生産額は前年同月比2.9%減。3か月先の業況見通しDIは0.0から▲35.7と
なった。

酒類では、県内向けの消費は落ち込んでいるものの、県外向けの売上が
堅調であった企業もあり、前年並みとなった。加工食品では、調査対象企業
の全てで前年同月比でプラスとなっている。菓子類では、生産調整のため稼
働率を落とす企業も見受けられ、落ち込んだ。

食料品生産額前年同月比



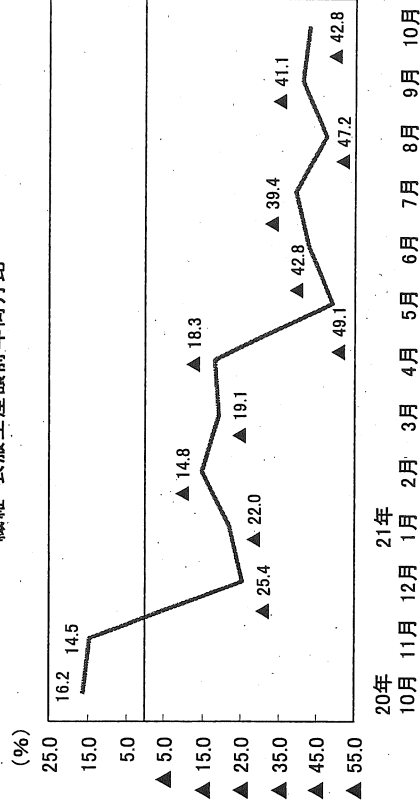
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比42.8%減、同19.6%減。3か月先の業
況見通しDIは▲20.0から▲16.7となった。

在庫量が増加し、生産調整を行っている企業も見受けられ、前年同月比4
割以上減の低調な生産活動が続ぎ、好転の兆しが見られない状況となつて
いる。

繊維・衣服生産額前年同月比



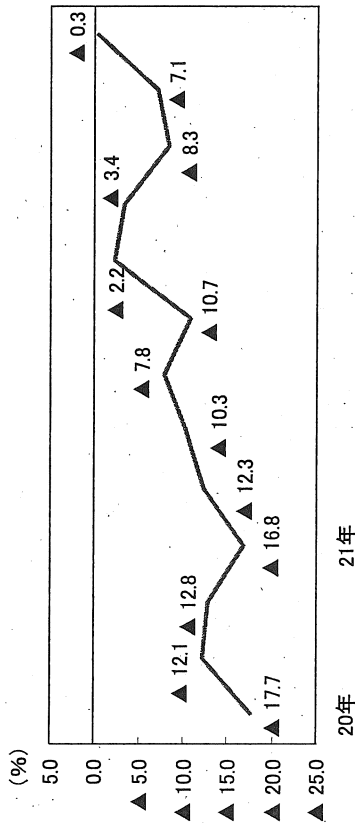
3 木材・木製品

26カ月連続マイナス、厳しい状況が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比0.3%減、同12.5%減。3か月先の業況見通しDIは▲8.3から▲41.7となった。

公共物件の受注等により生産を伸ばした企業もあり、前年同月比のマイナス幅が縮小したものの、全国的に住宅着工数は低迷したままであり、今後の冬季のオフシーズンへの受注確保に苦慮している状況も見受けられるなど、厳しい状況が続いている。

木材・木製品生産額前年同月比



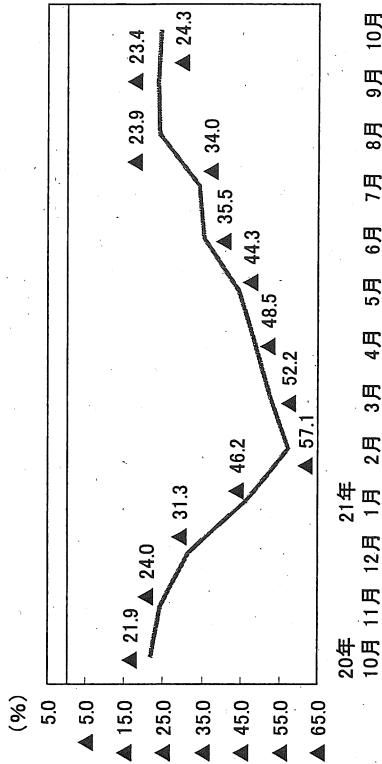
4 鉄鋼・金属製品

減産が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比24.3%減、同20.7%減。3か月先の業況見通しDIは▲9.1から▲27.3となった。

電気機械関係金属の一部において、前年同月比がプラスに転じたほかは減産が続き、勤務日における時短休業や休業日を設けている企業もあるなど、回復のスピードが鈍化している状況となっている。

鉄鋼・金属生産額前年同月比



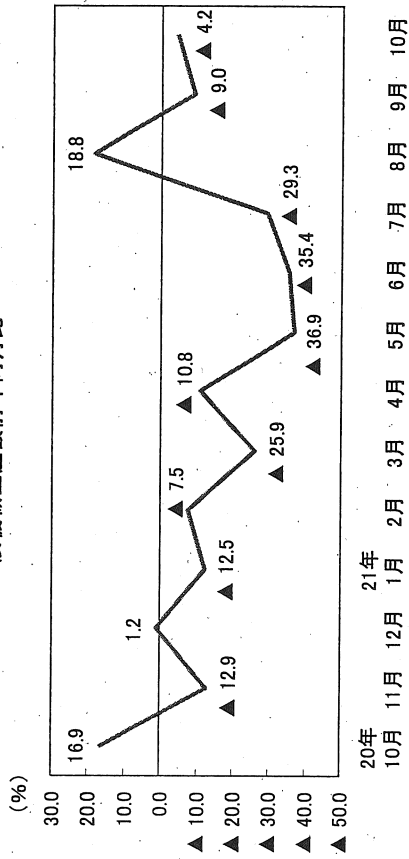
5 一般機械

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比4.2%減、同46.2%減。3か月先の業況見通しDIは▲42.9から▲83.3となった。

公共工事関連、プラント関連では引き続き堅調な動きも見受けられるものの、新規の受注が得られにくい状況となっており、先行きは不透明となっている。雇用調整による休業を行っている企業もあり、弱めの動きとなっている。

一般機械生産額前年同月比



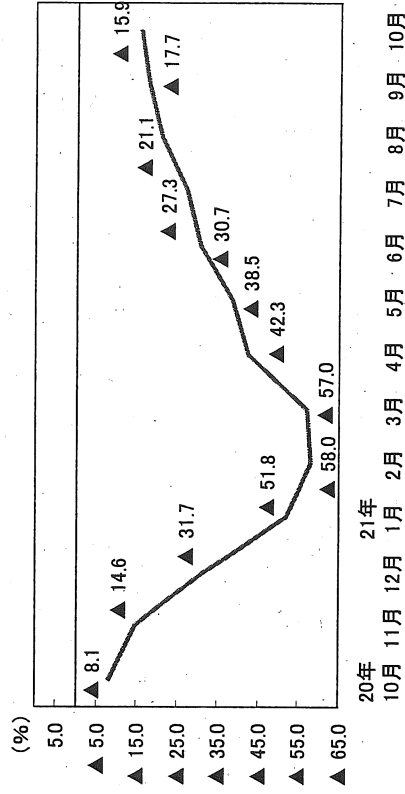
6 電気機械

減産の緩和が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比15.9%減、同17.4%減。3か月先の業況見通しDIは▲21.1から▲31.6となった。

コンデンサーでは、減産の緩和傾向が続いているものの、為替レートが円高で推移していることから、企業収益に影響を及ぼし、利益確保に苦慮している状況となっている。半導体関連では中国向けパソコン製品の伸びなどから、フル稼働による生産が行われている企業も見受けられ、堅調に推移している。

電気機械生産額前年同月比



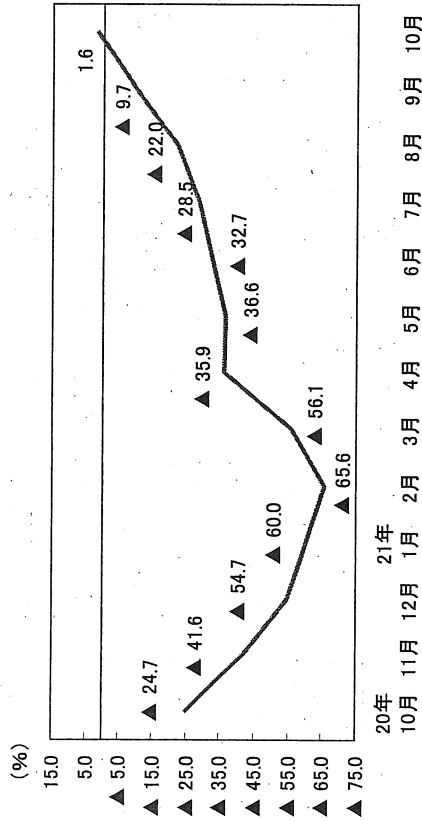
7 輸送機械

15カ月ぶりにプラス

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比1.6%増、同4.5%増。3か月先の業況見通しDIIは0.0から▲16.7となった。

回復基調が続き、平成20年7月以来、15カ月ぶりに生産額の前年同月比がプラスに転じた。増産の対応のため、残業や土曜日の出勤が行われている企業がある一方で、依然として休業日や操業停止日を設ける企業もあるなど、力強い動きとなるまでには至っていない。

輸送機械生産額前年同月比



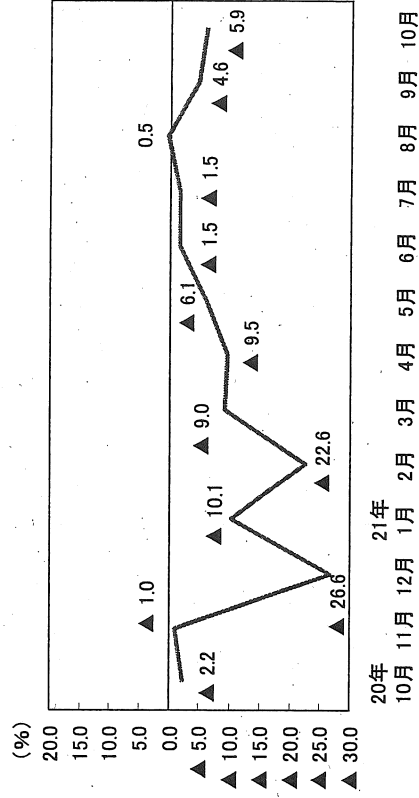
8 精密機械

弱含みとなっている

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比5.9%減、同6.5%減。3か月先の業況見通しDIIは37.5から0.0となった。

医療機器関連では、前年比増の堅調な動きが続いている。光ファイバー関連においては、北米等への輸出が堅調であり、前年同月比プラスとなっている。計量関連では、海外需要、国内需要共に低調であり、在庫が増加し休業日を設け生産調整を行っている企業が見受けられる。

精密機械生産額前年同月比



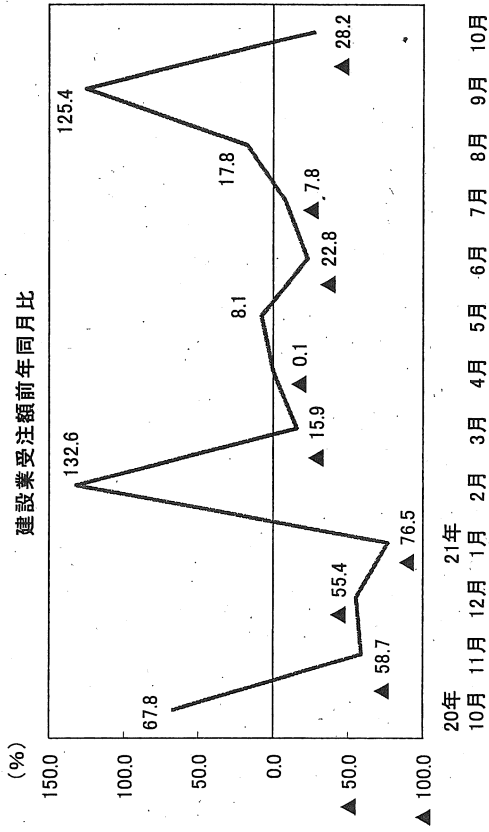
建設業の動向

建設業

公共工事の減少などから先行き見通しが悪化

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比28.2%減、同20.5%減。3か月先の業況見通しDIは▲31.3から▲66.7となった。

公共工事が減少したことなどにより、受注額の前年同月比がマイナスとなった。今後、規模が大きい受注予定の見込みがない企業も見受けられるほか、国の公共事業削減方針に伴う、景況の悪化が懸念される。



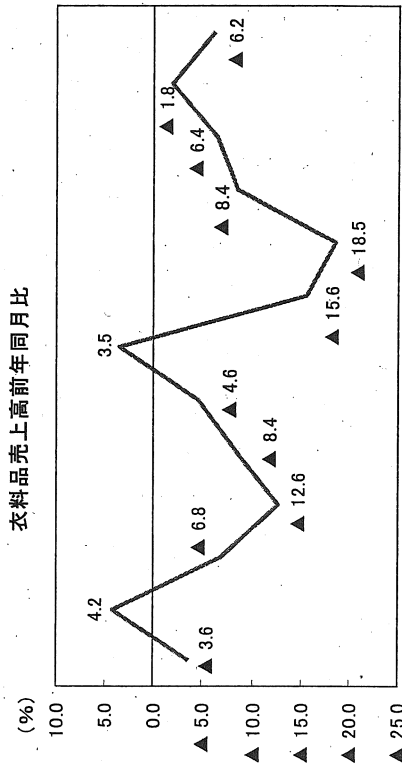
小売業の動向

1 衣料品

低調な売上となっている

売上高は前年同月比6.2%減。3か月先の業況見通しDIは▲33.3から▲60.0となった。

昨今の厳しい経済情勢により、客数が減少し、低調な売上が続いているほか、価格面での競争も激しく利益率も低い状況となっている。売上に回復の兆しが見られず、厳しい状況が続いていくと考えている企業が多い。



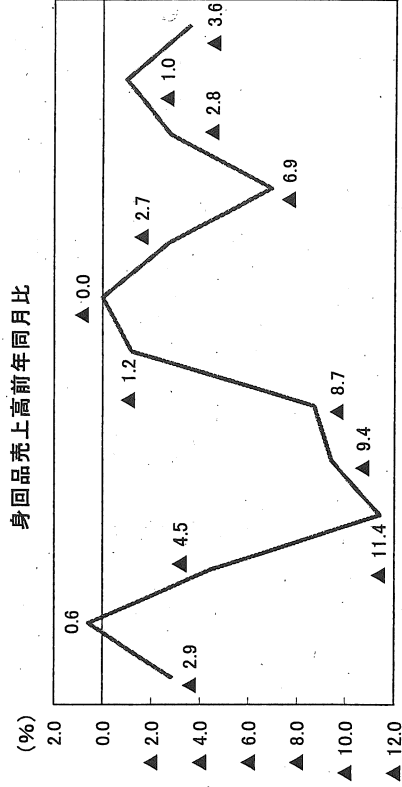
20年 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月
21年

2 身用品

売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比3.6%減。3か月先の業況見通しDIは▲83.3から▲50.0となった。

ホームセンターでは、これまで好調であった資材関係も売上が落ちてくるなど、品目を問わず全体的に売上が落ち込んでいる。化粧品、婦人小物、手芸用品においても、消費者の節約志向により必要最低限の物しか買わない傾向となっている。



20年 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月
21年

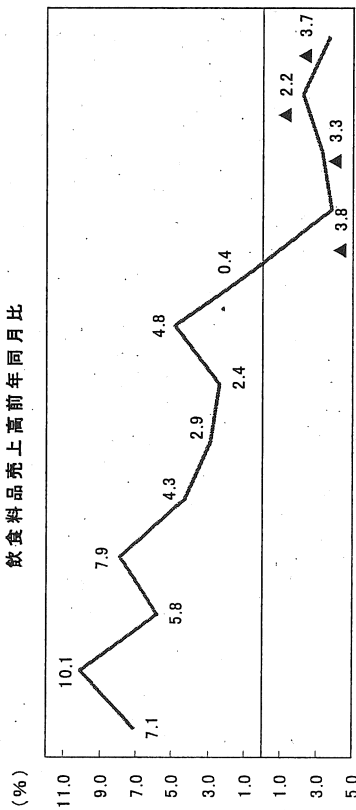
3 飲食料品

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比3.7%減。3か月先の業況見通しDIIは▲25.0から▲58.3となった。

スーパーでは、客数が前年と変わらなくても、売上が落ち込む企業も見受けられるなど、消費者の低価格志向が顕著となっている。コンビニでは、弁当等の米飯類やソフトドリンクの売上が落ち込み、客単価も減少している。

飲食料品売上高前年同月比



20年 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

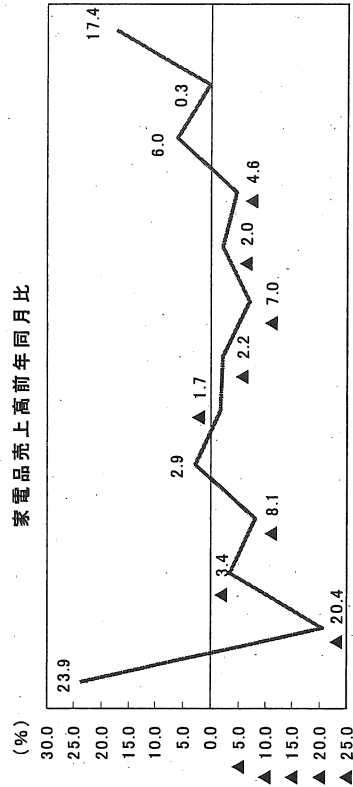
4 家電品

薄型テレビ、暖房器具が好調

売上高は前年同月比17.4%増。3か月先の業況見通しDIIは40.0から▲60.0となった。

エコポイントの効果もあり、薄型テレビの販売が伸びているほか、暖房器具が好調であり、調査対象企業の全てにおいて前年同月比プラスとなっている。

家電品売上高前年同月比



20年 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

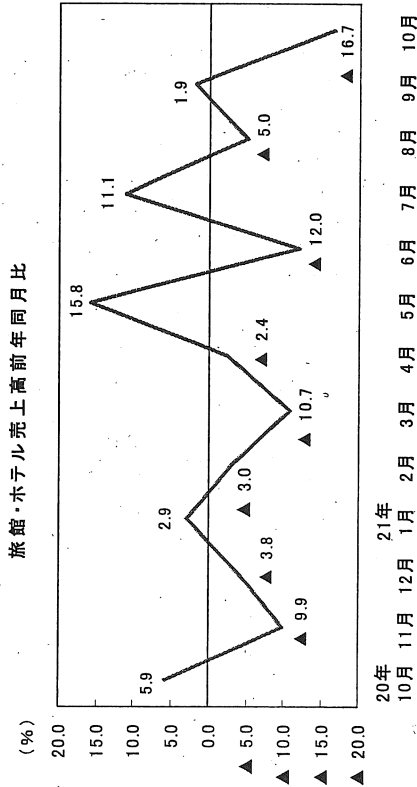
サービス業の動向

1 旅館・ホテル

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比16.7%減。3か月先の業況見通しDIは▲28.6から▲53.3となった。

宿泊部門、宴会部門、婚礼部門とも全般的に低調な売上となっており、調査対象となっているほとんどの企業で前年同月比マイナスの売上となっている。新型インフルエンザの流行により、宿泊部門や宴会部門においては、キャンセルも発生しており、今後も売上が伸び悩むことが懸念される。



2 その他サービス

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比3.0%減。3か月先の業況見通しDIは▲41.7から▲16.7となった。

旅行業では、景気が厳しい状況にあること、新型インフルエンザの流行、高速ETC割引による旅行形態の変化などの影響により、売上が減少している。運輸業では、輸送機械製造業の持ち直しにより、自動車関連部品が堅調であったものの、農産物が伸び悩んだ。

